氷見市埋蔵文化財調査報告第14冊

氷見市遺跡地図

［第２版］

付：朝日潟山古墳群・中村天場山古墳測量調査の成果

１９９３年３月

氷見市教育委員会

例　　言

1　本書は、昭和57年度に氷見市教育委員会が氷見市立博物館年報別冊として刊行した『氷見市文化財所在地図№1　氷見市遺跡地図』を基に、その後の新発見遺跡・新知見を加筆・修正したものである。

2　本書の地図は、国土地理院の承認を得て複製した25,000分の１の氷見市全図（承認番号平４北複第385号）を９分割したものである。

3　記載した遺跡は、これまでに発見された遺跡の他、口承・伝承等によるものを含み、その位置・範囲を赤枠又は赤点で表示し、これに一連の番号を付し、一覧表と対応させた。

　なお、遺跡の番号は『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』（富山県埋蔵文化財センター、１９９３年３月）と対応するので、あわせて参照していただきたい。

4　遺跡の位置・範囲については、できるかぎり正確を期したが、現状からの推測によるものがほとんどであり、今後の発掘・分布調査等により変更する可能性がある。

　なお、遺跡についての最新の情報は、市教育委員会生涯学習課に問い合わせていただきたい。

5　本書に記載した遺跡の範囲内で現状を変更しようとするときは、文化財保護法により届出又は通知が必要となるので、遺跡に近接する場合を含めて、市教育委員会生涯学習課まで連絡・確認いただきたい。

　なお、遺跡の取り扱いについては、上記の『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』も参照していただきたい。

6　本書は、平成５年３月15日現在までの資料によるものである。

7　本書には、今年度実施した朝日潟山古墳群及び中村天場山古墳の測量調査の成果を収録した。

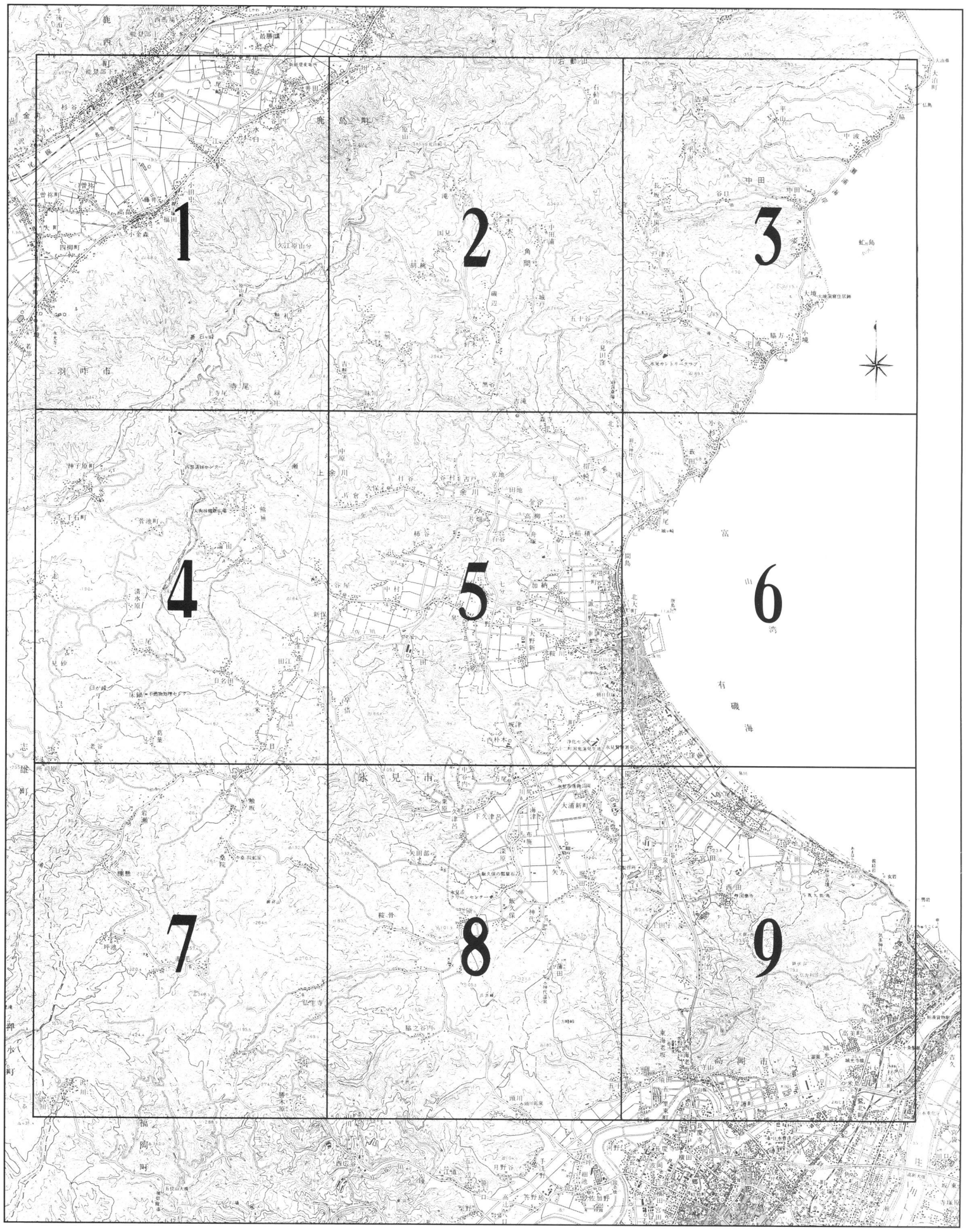
8　本書の作成・編集は、氷見市立博物館学芸員（生涯学習課兼務）大野究と氷見市教育委員会生涯学習課学芸員鈴木瑞麿が担当した。

9　本書の作成にあたっては、旧版とあわせて以下の機関・個人の協力をいただいた。記してお礼申し上げる（順不同・敬称略）。

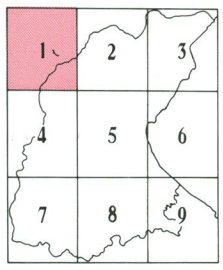
富山県教育委員会文化課・富山県埋蔵文化財センター

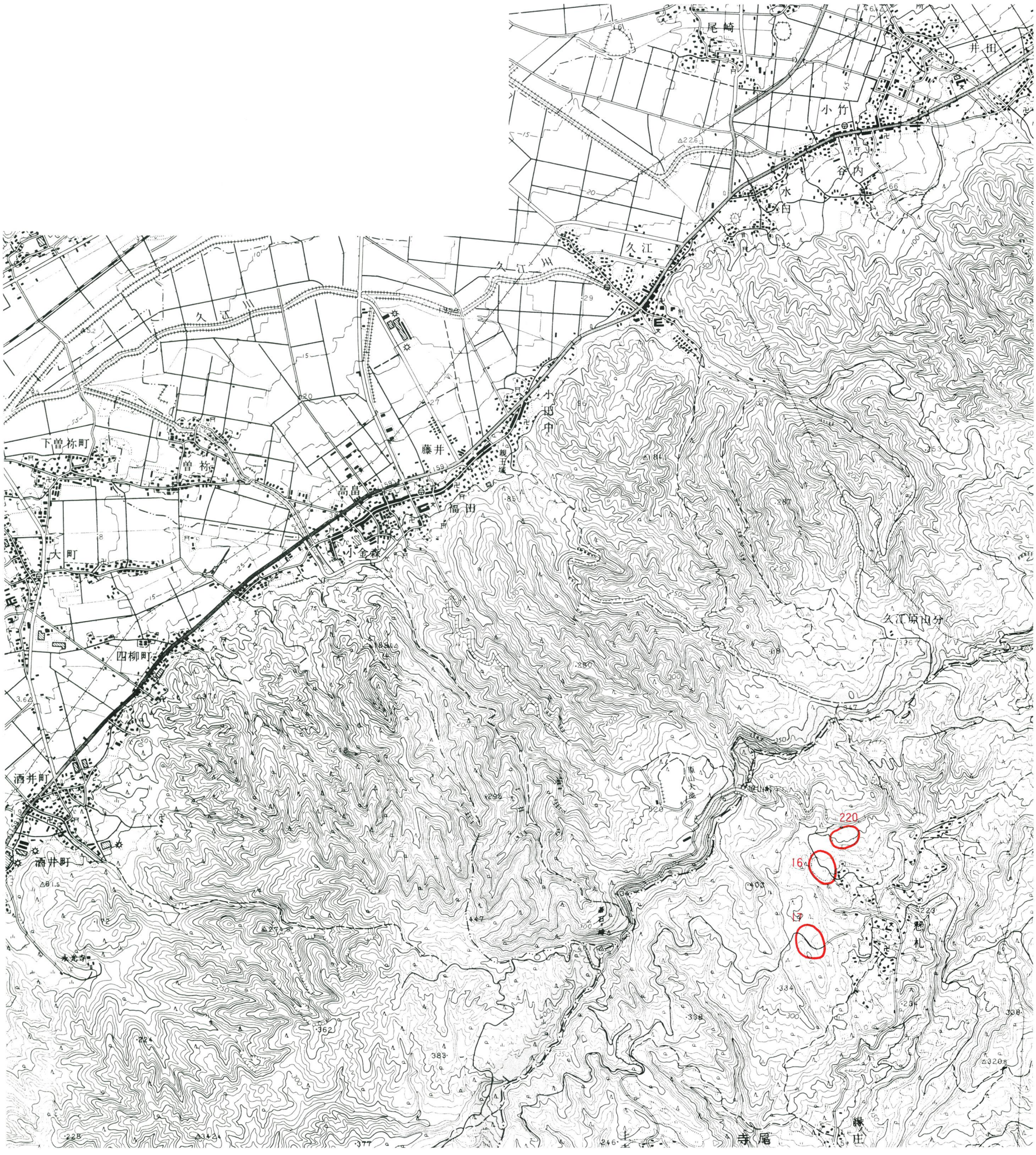
湊晨・斉藤道保・西井龍儀・橋本芳雄・児島清文・円仏三郎兵衛・林寺厳州・京田良志・藤坂紀・高岡徹・山岸太一・田中清一・百谷保・宝住修三・川渕清一・高西力・両国貞・竹村満宏・津田耕吉・三矢恵京・奥田和孝・鈴木瑞治・中居敏雄・向島秀一・開兵太郎・岡本恭一・小境卓治

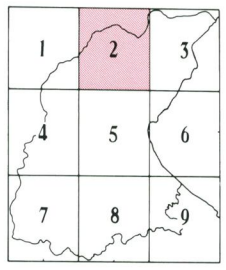
索　引　図



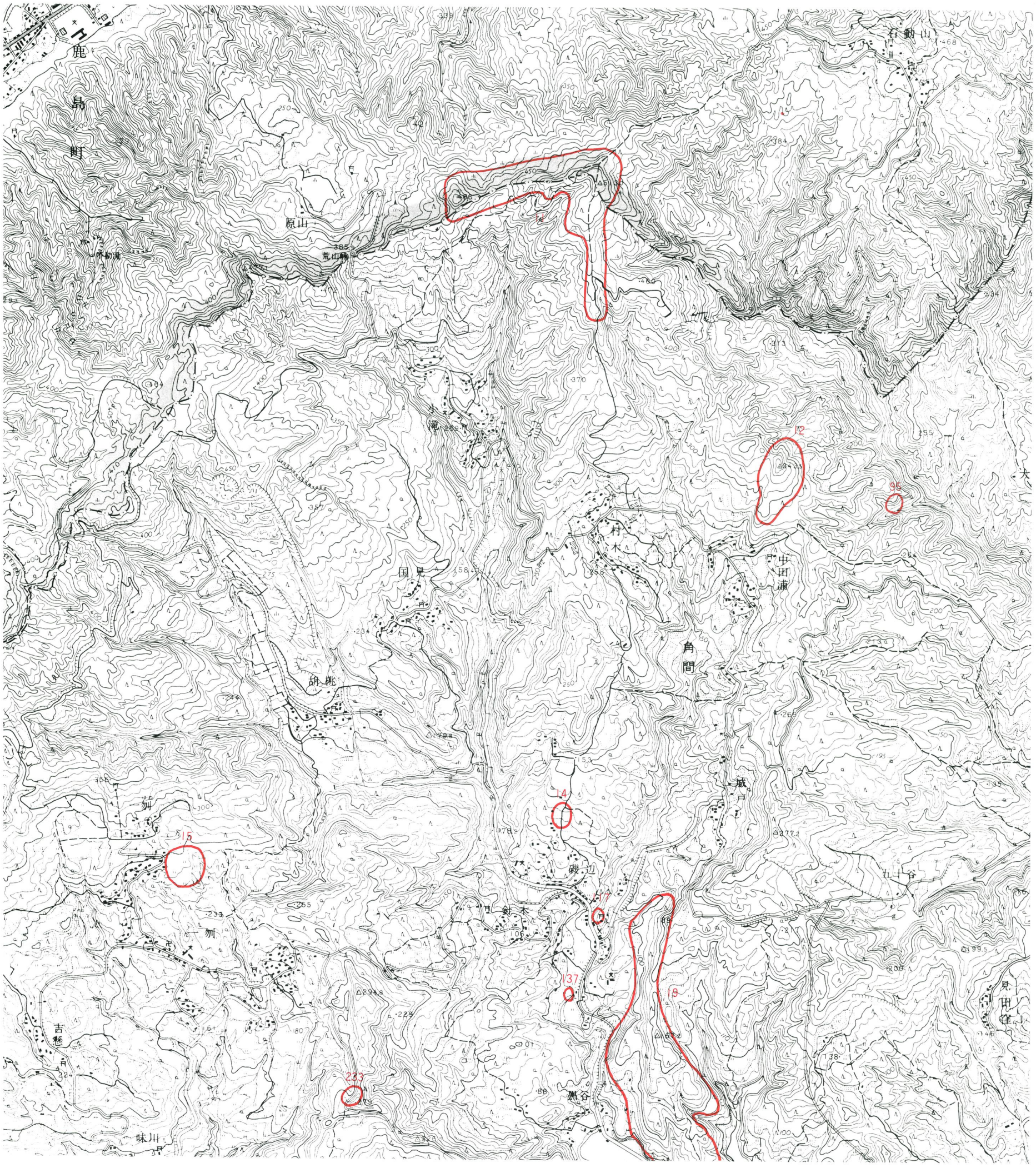
1


1
2
3
4
5
6
7
8
9

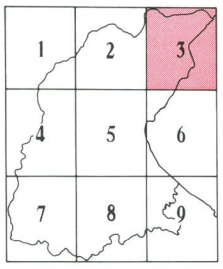

尾崎
井田
小竹
谷内
水白
久江
久江川
小田中
藤井
下曽祢町
曽祢
高畠
福田
大町
小金森
四柳町
酒井町
久江原山分
原山大池
220
16
寺尾
縣田

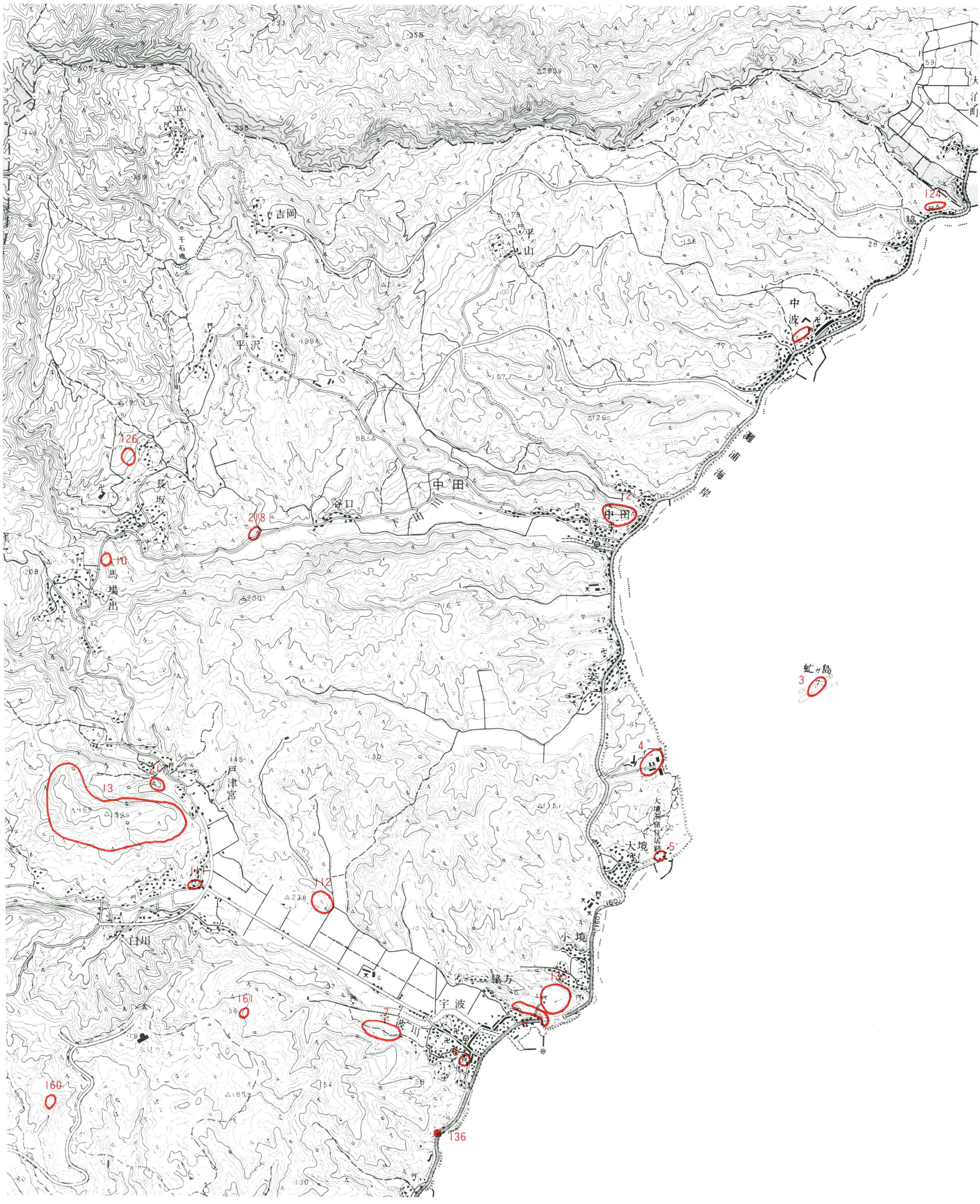

1
2
3
4
5
6
7
8
9

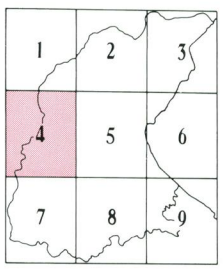
2


鹿
島
町
原山
荒山砂防
石動山
468
滝
村木
中田浦
国見
胡桃
角間
磯辺
九十谷
見田
吉懸
味川
黒谷
12
95
14
15
17
137
19
223

3


1
2
3
4
5
6
7
8
9

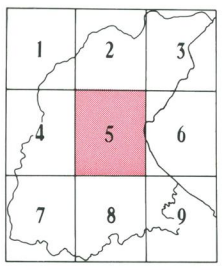

平
吉岡
平山
平沢
中波
中田
谷口
下田川
長坂
馬場出
戸津宮
白川
宇波
宇波川
脇方
小境
大境
大境洞窟住居跡
虻ヶ島
難波浦海岸
124
126
12
218
110
13
117
111
112
161
160
136
135
4
5
3


1
2
3
4
5
6
7
8
9

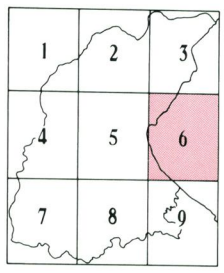
4

下寺尾
高月
神子原町
千石町
菅池町
熊無
論田
清水原
三尾
日谷田
新保
小窪
田上
小久米
日詰
床鍋
葛葉
老谷
不燃物処理センター
27
36
34
43
45
46
47
94
44
162
193
174
175
173
165
167
187
208
207
206
205
202
180

5


1
2
3
4
5
6
7
8
9

吉滝
森寺
向尾
指崎
中原
小用
杉谷
丹余川
谷村
古志余川
久保ヶ
日谷
京地
片倉
余川
片畑
田地
松本
高柳
向谷内
百谷
舟塚
櫨積
柿谷
上庄川
七分
中村
加納
泉
大野
大野新
諏訪野
幸町
水
鞍川
見市
清水
十二町
矢崎
荒館
津野
沖崎
坂津
十一町福祉郷公園
十一町渇オ
バス発生地
水処理場
島崎
西朴木
方尾
土田
中尾
早借
倉屋


1
2
3
4
5
6
7
8
9

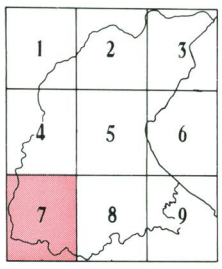
6

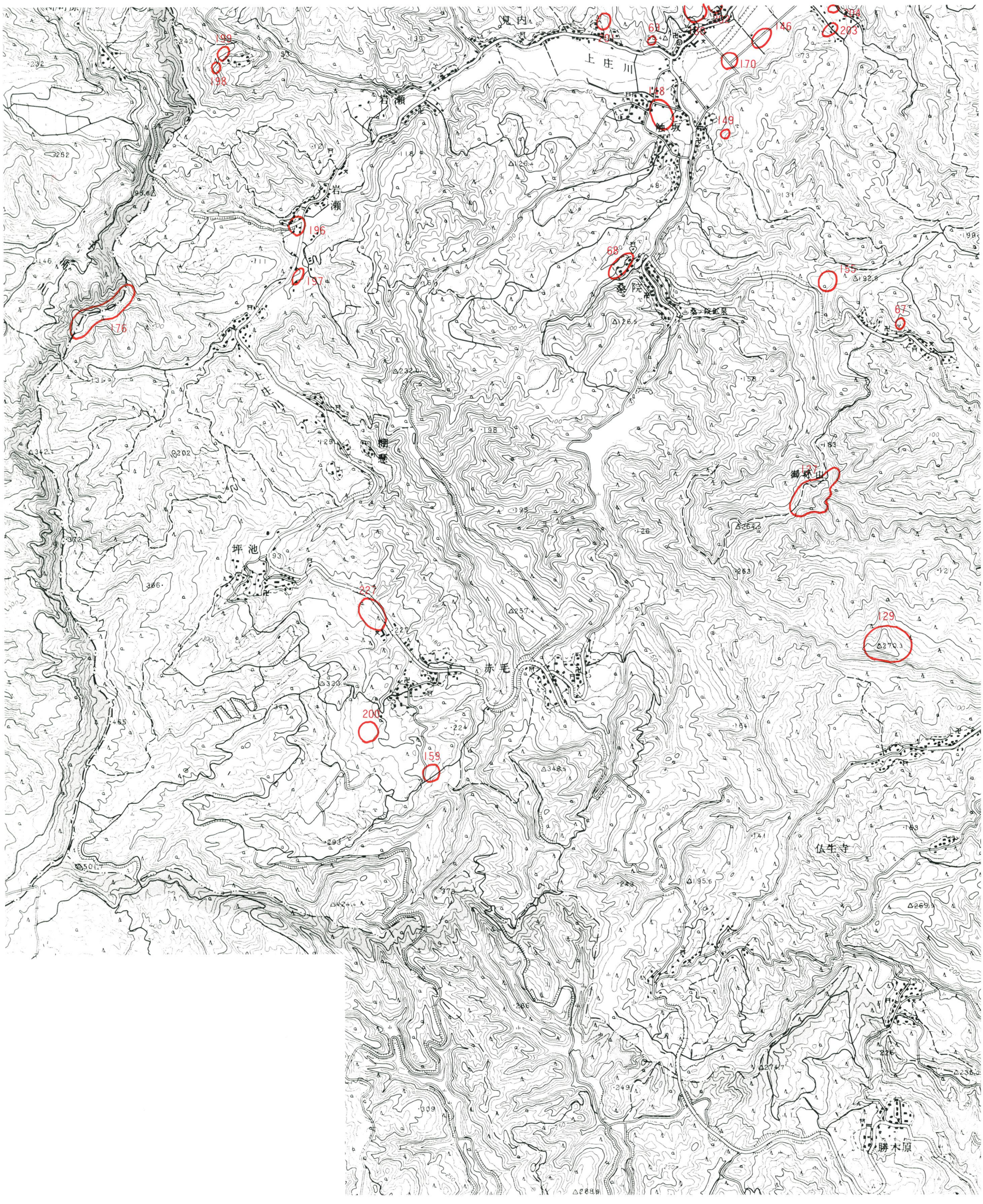
北代
小杉
136
泊
裁田
89
22
188
182
阿尾
26
88
24・25
城ヶ崎
間島

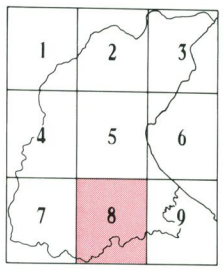
富　山　湾

北大町
唐島
225
有
磯
海
中央町
96
湊川
南大町
地蔵町
新川
伊勢大町
57
富
本線

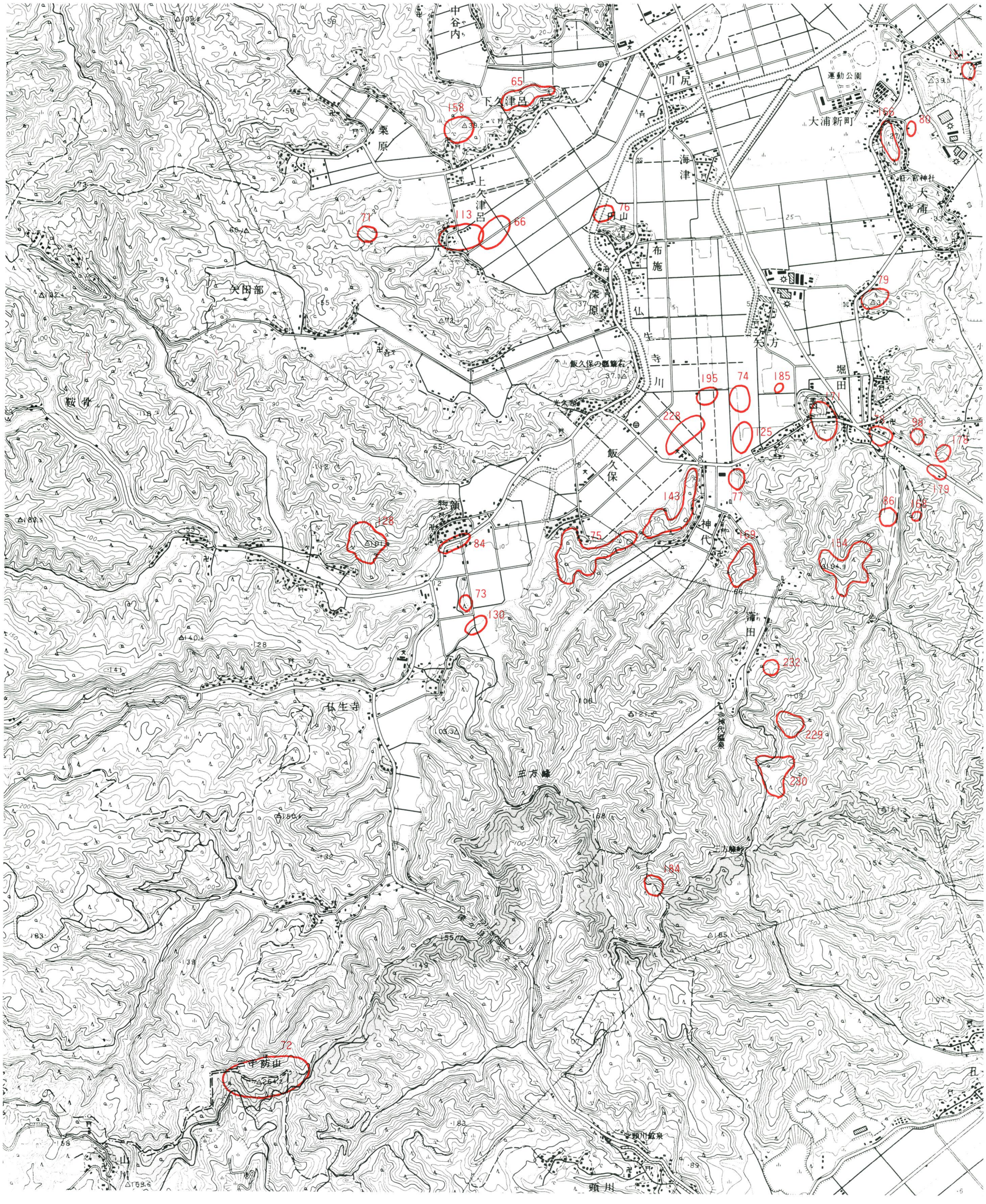
7


1
2
3
4
5
6
7
8
9

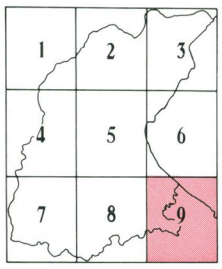

見内
上庄川
岩瀬
触坂
臺院
桑ヶ城鉱泉
棚懸
坪池
赤毛
御林山
仏生寺
勝木原
199
198
196
197
176
68
155
67
146
170
148
149
227
200
159
129


1
2
3
4
5
6
7
8
9

8


中谷内
下久津呂
上久津呂
栗原
矢田部
鞍骨
川尻
海津
大浦新町
運動公園
大浦
布施
仏生寺川
深原
矢方
堀田
飯久保
極願
神代
蒲田
仏生寺
芝方峰
頭川
65
158
71
113
66
76
79
195
74
185
228
125
99
178
143
77
179
86
128
84
75
109
154
73
130
232
229
230
184
72

9


1
2
3
4
5
6
7
8
9

柳田
島尾
上伊泉
宮田
太田
桜谷古墳
義経岩
女岩
男岩
西田
国泰寺
上田子
自然休養村
大師ヶ岳
小竹
鉢伏山
仏舎利塔
高岡市
高美町
城光寺
伏木矢田
伏木古府
伏木一丁目
伏木港大橋
城光寺橋
東海老坂
西海老坂
五十里西町
須田
守山
二上
高岡短大
下水道浄化センター
東亜合成化学工場
米島
米島橋
対港橋
加越能鉄道
能町
荻布
日本ビール工場
守護町二丁目
守護橋
百橋
五十里東町
長

■遺 跡 一 覧 表

登録番号	地図番号	遺跡名	所在地	時代	主な出土遺物	備考	主な文献
1	3	中波貝塚(女良貝塚)	中波455	縄文中期		ほぼ消滅	32.49
2	3	一夜城	中田	室町	滑石製義歯		44
3	3	虻が島	姿字浜898	縄文後期			49.108
4	3	九殿浜	姿字九殿	古墳～奈良・平安	須恵器・土師器・製塩土器	ほぼ消滅	49.58
5	3	大境洞窟	大境字駒首	縄文中期～中世	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、中世陶器、人骨・獣骨、石棒、骨角器		2~11.15.17.24.28.32.35.40.47.49.56.105
6	3	脇方横穴群	脇方字丑が端	古墳	直刀、須恵器、管玉、切子玉、人骨	8基以上	31.39.43.47.98
7	3	宇波庚申塚	宇波			ほぼ消滅	
8	3	宇波古墳	宇波神社境内	古墳	人骨一体分、直刀・提瓶・瓿	ほぼ消滅 石室石材同社境内に有	1.43.47
9	6	泊洞窟	小杉	縄文早～前期	人骨・土器片		69.84.96
10	3	長坂貴船	長坂字前田	縄文中・後期	縄文土器、石鏃・石斧	一部現状保存	49.72
11	2	荒山砦	小滝字奥山割	室町			44.78
12	2	尾端城(尾花城)	村木			伝承地	44
13	3	白河城	白川字出崎出	室町			44
14	2	磯部明円	磯部北山1553～57	縄文	縄文土器・石器		47
15	2	一刎前田	一刎字前田2362	縄文中・後期	縄文土器、石鏃、石斧、玦状耳飾		39.47
16	1	懸礼上ノ前	懸礼字上ノ前767	縄文中期	縄文土器		47
17	1	懸礼宮が谷内	懸礼字宮が谷内626	縄文後・晩期	縄文土器、石鏃、石斧		47
18	5	高塚	余川字片畑			城址伝承地	44
19	2・5	森寺城(湯山城)	森寺城山	室町		S48.1.30市指定	44.61
20	5	海老瀬城(月夜城)	余川字田地・森寺字海老瀬	室町			44.113
21	5	指崎向山古墳群	指崎字向山30他	古墳	13号墳出土遺物 直刀．管玉	13基以上　S24. 群中の1基(13号) 発掘調査、木棺、礫床	29.47
22	6	阿尾瀬戸が谷内横穴群	阿尾瀬戸が谷内他	古墳	人骨	消滅か？	47.106
23	6	阿尾	阿尾543～4	古墳初期	土師器		20.47.49
24	6	阿尾城山横穴群	阿尾城山4の1 阿尾519	古墳	提瓶、瓿、金環、刀子	4基以上	31.47
25	6	阿尾城	阿尾字城山	室町	珠洲焼・土師器等	S40.10.1県指定	22,27,44,65,117
26	6	三角山城	阿尾字島尾				44.102
27	4	一ノ瀬	一ノ瀬番場	縄文後期	縄文土器、石斧	ほぼ消滅	39.47.67
28	5	稲積三ツ屋前	稲積三ツ屋前	奈良・平安			
29	5	稲積城	稲積城が峯				44
30	5	木谷城	稲積字木谷				44
31	5	加納中程経塚	加納字中程				
32	5	加納横穴群	加納字蛭子	古墳	須恵器杯、提瓶、高杯、瓿、台付長頸壺、横瓶、刀子、金環、勾玉、切子玉、管玉、小玉、人骨	56基以上 群中4基が発掘調査(S24・29)S48.3.10市指定	12.31.37.48.51.52.63.76
33	5	中村城	中村字粟屋山	室町			44.113
34	4	小久米番場谷内	小久米字番場谷内	奈良・平安・江戸	須恵器、土師質骨甕	消滅	
35	5	谷屋A	谷屋	奈良・平安			
36	4	小久米B	小久米			詳細不明	
37	5	中村天場山古墳	中村字天場山	古墳			
38	5	余川片畑	余川字片畑	古墳	須恵器瓿		100
39	5	泉中尾廃寺	泉字寺尾		金銅仏		97
40	5	領毛A	泉字領毛	縄文～古墳	石器、須恵器、土師器		
41	5	領毛B	泉字領毛	古墳	須恵器、土師器		

42	5	泉古墳群	泉字領毛	古墳	須恵器、直刀、玉類	20基以上 群中３基(鶴塚・鶏塚・猫塚)が大正年間に発掘されている。	47
43	4	小久米A	小久米字諏訪平	縄文～奈良・平安			77.82
44	4	小窪瓦窯	小窪	奈良	平瓦、丸瓦？	小窪廃寺出土品と同質、同型	38.88
45	4	小久米A古墳群	小久米	古墳		２基以上	77
46	4	小浦城(池田城)	小久米字池田	室町			44.101.103
47	5	余川寺ヶ谷内	余川字寺ヶ谷内	古墳～室町	須恵器、土師器、珠洲焼		60.100
48	5	中尾横穴群	中尾字寺尾	古墳			
49	5	中尾新保谷内	中尾字寺尾	奈良・平安			
50	5	千久里城	中尾字萱戸				44.103.110.113
51	5	沖布A	沖布字引畑	弥生後期～奈良・平安	弥生土器、土師器、須恵器		37.47
52	5	鞍川金谷	鞍川川下	縄文中期～古墳	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器		47.67
53	5	上日寺中世墓群	朝日本町16-8	鎌倉初期～室町後期	珠洲焼		41
54	5	朝日水源地	朝日丘	縄文後・晩期	縄文土器、石器		48
55	5	朝日長山古墳	朝日本町(長山)708	古墳(６世紀前葉)	須恵器、土師器、直刀、鉄鉾、杏葉、冠帽片、管玉、埴輪	消滅	36.47.57.79.116
56	5･6	朝日貝塚	朝日丘151～154	縄文前期～晩期 弥生～奈良・平安	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石斧、石鏃、石棒、石冠、土偶、骨角器、人骨、獣骨	大正11年国指定	13.14.16.18.21.23.26.30.33.34.40.47.49.70.80.81.87
57	6	岩上	伊勢大町、本町	縄文～中世	縄文土器、土師器、須恵器、石鏃、石包丁、土師質搭片		25.70
58	6	伊勢玉神社中世墓群	伊勢大町１丁目９	鎌倉、室町	珠洲焼		
59	5	稲積三屋野	栄町	奈良・平安～中世	須恵器、土師器、珠洲焼	ほぼ消滅	
60	9	柳田	柳田2944他	弥生後期～古墳	弥生土器、土師器、須恵器		42.47
61	9	窪経塚	窪			消滅	
62	5	荒館A	十二町荒館			城郭伝承地	
63	5	万尾	万尾字二俵目	弥生～古墳			
64	5	坂津横穴群	十二町坂津字 新が谷内	古墳	須恵器、土師器、直刀、金環、銀環、人骨	36基以上	1.31.47
65	8	久津呂城	下久津呂字城			伝承地	103
66	8	上久津呂A	上久津呂字前田	古墳～奈良・平安	須恵器、土師器		50
67	7	鉾根経塚	鉾根			詳細不明	
68	7	桑ノ院吉谷	桑ノ院字吉谷	縄文中期			47
69	4	久目経塚	久目				
70	5	稲積西ヶ谷内	稲積西ヶ谷内	奈良・平安	須恵器、土師器		62.91.100
71	8	上久津呂ゴタンダ山	上久津呂ゴタンダ山	縄文、古墳	石斧、土師器		
72	8	二ツ城	仏生寺字脇ノ谷内			伝承地	
73	8	惣領古墳	惣領字紅地平１番地	古墳(６世紀後葉)	直刀、刀子、管玉、須恵器		47
74	8	神代羽連	神代字羽連99	縄文～奈良・平安	石斧、土師器、須恵器		47
75	8	飯久保城	飯久保字向山	室町			44.103
76	8	布施八ヶ田	布施八ヶ田	縄文後期	縄文土器		
77	8	矢ノ方一丁目	矢ノ方一丁目380	古墳初期	土師器	旧矢ノ方一丁田	47
78	8	堀田大久前	堀田字大久前	古墳～奈良・平安	須恵器、土師器		66.94
79	8	馬乗山	堀田山ノ越2-5	古墳初期		詳細不明	94
80	8	大浦	大浦	弥生		詳細不明	
81	9	四十塚	下田子字四十塚1220	縄文中～晩期 奈良・平安	縄文土器、土偶、石器、須恵器、土師器	消滅	39.47.53.94
82	9	多胡城	下田子字四十塚			消滅	94.103
83	9	田子	下田子字瓦場	奈良・平安	須恵器		94

84	8	惣領	惣領	古墳～奈良・平安	須恵器、土師器、馬歯		
85	6	朝日十字路	朝日丘	中世	宗・明銭等6,484枚		
86	8	堀田ワタリウエ	堀田字ワタリウエ	古墳～中世	須恵器、土師器、珠洲焼	旧堀田西谷内	94
87	9	上泉	上泉	古墳～中世	須恵器、珠洲焼		
88	5･6	阿尾島田A	阿尾字島田	古墳～中世	須恵器、土師器、珠洲焼		102.104
89	6	山崎城	阿尾・藪田		珠洲	ほぼ消滅	102.106
90	5	中村粟屋古墳群	中村字粟屋	古墳		6基以上	
91	5	谷屋B	谷屋	古墳	子持勾玉、璁		54
92	5	沖布B	沖布	奈良・平安	須恵器、土師器		
93	5	稲積後池	稲積字西谷内	縄文前期	縄文土器		100
94	4	小窪廃寺	小窪字塔のすま	奈良	平瓦、丸瓦、礎石		38.89
95	2	八代仙行場跡	角間字八代仙				78
96	6	比美浜	比美町			二次的散布地	
97	5	鞍川寺田	鞍川字寺田	縄文後期	縄文土器	消滅	
98	8	堀田ナンマイダ松古墳	堀田字藤塚			中世墓か？	94
99	5	稲積前田	稲積字前田	古墳～平安	須恵器、土師器、管玉		62
100	5	坂津	十二町坂津	平安・鎌倉	土師器、中世陶器		
101	5	七分一	七分一	古墳	須恵器、土師器		
102	5	余川親ヶ谷内	余川字親ヶ谷内	奈良・平安	須恵器、土師器		60.100
103	5	余川海老田	余川字松木	奈良・平安	須恵器、土師器		60.100
104	5	余川古寺谷内	余川字田地	中世	珠洲焼		60
105	5	指崎五反田	指崎字五反田	奈良・平安	須恵器、土師器		
106	5	荒館B	十二町荒館	縄文・鎌倉	石斧、瓦器		
107	5	諏訪野A	諏訪野	奈良・平安	須恵器、土師器		
108	5	諏訪野B	諏訪野	中世	土師質土器		
109	5	加納金宮	栄町		土師器		
110	5	阿尾島田B	阿尾字島田	中世	珠洲焼、土師器		
111	3	楯鉾神社	白川	縄文後期	縄文土器、石斧、石鏃		
112	3	熊野神社古墳群	宇波吉田567	古墳、中世		群中1基は中世墓？	
113	8	上久津呂B	上久津呂	奈良・平安	土師器		
114	6	藪田	藪田竹の越297.298	縄文～奈良・平安	縄文土器、須恵器、土師器		
115	5･6	十二町潟排水機場	窪	縄文前期	縄文土器、石鏃、石錘		71.73.95
116	9	小竹	小竹	古代・中世	宗･明銭･珠洲焼･土師器		32.111.112
117	2	磯辺神社中世墓	磯辺	中世	珠洲焼		
118	5	余川川河床	余川	縄文・古墳・古代	須恵器、縄文土器	A～C地点	60.100
119	5	余川市谷	余川市谷	古代			100
120	5	中尾ガメ山	中尾字茅戸	鎌倉	唐・宗銭等1,794枚		75
121	5	新保城	新保城ヶ峯				
122	5･6	八代城	北八代城ヶ峰			伝承地	
123	5	余川谷村	余川谷村	古代			100
124	3	脇中世墓群	脇少彦名神社境内	中世	珠洲焼甕、石塔		
125	8	石崎	堀田一の坪2,312他	奈良・平安・中世	須恵器、土師器、珠洲焼		64
126	3	長坂ソウト	長坂字山田ソウト	中世	珠洲焼甕2.人骨2.宗銭3枚、五輪塔		78
127	8	御林山(鞍骨山)城	鞍骨	室町			101.103
128	7	惣領砦	惣領	室町			103
129	7	仏生寺城山	仏生寺上中				
130	8	惣領B	惣領	古墳～奈良・平安	須恵器、土師器		
131	4･5	新保横穴群	新保字後山				19
132	5	指崎諏訪野	指崎字諏訪野	中世	土師器		
133	5	蓮乗寺中世墓群	朝日本町(庚申塚)	中世	珠洲焼、五輪塔、板碑		
134	5	朝日潟山古墳群	朝日丘(潟山)	古墳			
135	3	脇方十三塚古墳群	脇方・小境	古墳	土師器		
136	3	宇波洞窟	宇波一石山		土器片		
137	2	磯辺中世墓	磯辺	中世	珠洲焼		
138	5	鞍川A中世墓	鞍川	中世	珠洲焼		
139	5	鞍川B中世墓	鞍川	中世	珠洲焼		
140	5	朝日谷内横穴	幸町	古墳			68

141	5	谷　屋　C	谷屋	古代	須恵器		
142	5	竹里山岩屋	中尾	中世	石造不動明王像	護摩壇有り	
143	8	光西寺山古墳群	神代・飯久保	古墳			94
144	6	藪田薬師	藪田字薬師	古墳・中世	須恵器、鉄刀、土師器、人骨、石造物など	横穴と中世墓	83
145	6	御座町	伊勢大町				
146	7	久目覚地	久目覚地	古代	須恵器		101
147	4	久目千元	久目千元	古墳	土師器		101
148	7	触坂広瀬	触坂広瀬	縄文・古墳・古代	縄文土器、土師器、須恵器	墨書土器	59.101
149	7	堂谷山古墳	触坂	古墳			59.101
150	5	加納蛭子山古墳群	加納蛭子山	古墳			76
151	8	園カンデ窯跡	園カンデ	古墳	須恵器		93
152	9	園長堤	園		鉄滓		
153	9	柳田沖宮	柳田沖宮		鉄滓		
154	8	堀田城	堀田	中世			92.94.103
155	7	桑院金山	桑院		鉄滓		
156	5	柿谷椎木出	柿谷		鉄滓		
157	4	久目安楽寺	久目安楽寺	古代	須恵器		101
158	8	上久津呂C	上久津呂	中世	珠洲		
159	7	土倉稲村	土倉	縄文	石器		101
160	3	泊馬当	泊			塚	
161	3	宇波高坂	宇波			炭焼窯か	
162	4	田江大畠	田江	縄文	縄文土器		90
163	5	七軒町	幸町	縄文	縄文土器		
164	5	速川神社古墳群	早借・新保	古墳			
165	4	早借ヤワタ古墳群	早借	古墳			
166	8	大浦	大浦			詳細不明	
167	4	久目トリノマエ	久目	古代・中世	須恵器、珠洲		101
168	8	堀田館ノ山	堀田			塚	94
169	8	神代城	神代ノノ山	中世			94.103
170	7	久目浄仙	久目	中世	珠洲		101
171	8	堀田ニキ塚山古墳群	堀田	古墳			94
172	5	イヨダノヤマ古墳群	新保・上田	古墳	土師器		
173	4	小久米B古墳群	小久米	古墳			
174	4	田江古墳群	田江	古墳			
175	4	日名田古墳群	日名田	古墳			
176	7	一の島(岩瀬)城	一の島	中世			101.103
177	5	中村横穴群	中村	古墳			
178	8	堀田東谷内	堀田			詳細不明	
179	8	堀田ガス山	堀田			詳細不明	
180	4･7	久目梨谷古墳群	久目	古墳			101
181	6	阿尾島尾A	阿尾字島尾	縄文・古代～近世	須恵器、珠洲他		102.104.115
182	6	阿尾島尾B	阿尾字島尾	縄文・古代～中世	縄文土器、須恵器		102
183	6	阿尾瀬戸ヶ谷内	阿尾	縄文	縄文土器		102
184	8	神代テラヤシキ	神代	中世	珠洲		
185	8	堀田モリノ田塚	堀田	中世	珠洲	消滅	
186	5	高松城跡	粟原・上田	中世			103
187	5	中尾山田	中尾字谷内	古代	須恵器	炭焼窯か	
188	5	泉　A	泉	古代	須恵器		
189	5	泉　B	泉	古代・中世	須恵器、珠洲		
190	5	鞍川諏訪社	鞍川	中世	珠洲		
191	5	柿谷大口	柿谷	中世	珠洲		
192	5	荒館ソモギ	荒館	中世	珠洲		
193	4	早借サカタ	早借		土師器		
194	5	加納桜打	加納			詳細不明	
195	8	神代ハタケダ	神代字羽連	中世	土師器		
196	7	岩瀬番畑	岩瀬	縄文・弥生	石器		101
197	7	岩瀬谷内の前	岩瀬	縄文？			101

198	7	老谷滝の上	老谷	縄文中期	縄文土器		101
199	7	老谷	老谷	中世		館跡か	101
200	7	土倉ゴマジマチ	土倉	縄文	石器		101
201	7	見内モリヒサ	見内	縄文		詳細不明	101
202	4	久目梨谷	久目	中世	珠洲		101
203	7	久目朴木	久目	古代・中世	須恵器、珠洲		101
204	7	久目大坪	久目	近世	越中瀬戸		101
205	4	久目大町	久目	古代・中世	須恵器、珠洲		101
206	4	久目ゾウダナ	久目	古墳・古代	須恵器		101
207	4	久目桑の木	久目	古代・中世	須恵器、珠洲		101
208	4	久目子浦谷内	久目	中世	珠洲		101
209	5	余川善名	余川	中世	珠洲		100
210	6	朝日橋詰	朝日本町	中世	五輪塔など		85
211	5	大野沢	大野(沢)	縄文・古代	石斧、土師器、須恵器		45
212	5	上田南儀	上田	縄文・古代	縄文、土師器、須恵器		
213	5	滝尾山	早借	中世	土師器、珠洲	寺院跡か	90
214	5	上田A	上田	古代	須恵器		
215	5	上田B	上田		土師器、賜杖		
216	5	柿谷土谷山古墳群	柿谷	古墳	鉄刀、鉄鏃、土器		45
217	3	戸津宮中世墓群	戸津宮	中世	石造物、珠洲		78
218	3	長坂行入塚	長坂	中世	石造物		78
219	5	朝日山砦	幸町	中世			103
220	1	懸礼ホウシバラ	懸礼	縄文	縄文土器		
221	5	上田C	上田		土器		
222	5	上田D	上田	古墳			
223	5	上田E	上田		土器		
224	5	鞍川C	鞍川	中世	土師器		
225	6	唐島	中央町	中世・近世	土師器		
226	9	大浦深素	大浦	古代	須恵器		
227	7	坪池白坂	坪池	縄文	縄文土器、石器		107
228	8	飯久保ナガモン	飯久保	奈良	須恵器、土師器		
229	8	堀田長尾	堀田	中世		墓か	
230	8	蒲田A	蒲田・堀田	中世			
231	9	柳田布尾山	柳田・園・大浦	縄文	縄文土器、石器		
232	8	蒲田B	蒲田	中世	土師器		
233	2	柴峠城	余川、一刎・吉滝	中世			
234	6	柳田狐塚	柳田	中世か		消滅	

■ 氷見市遺跡地図参考文献

1　富山県氷見郡役所　1915　『古墳ニ関スル調査』（行政資料）
2　上田三平　1918　「越中氷見郡大境洞窟内の弥生遺跡」『歴史地理』32巻４号
3　柴田常恵　1918　「越中国氷見郡宇波村大境の白山社洞窟」『人類学雑誌』33－７
4　松村　瞭　1918　「越中大境洞窟内発見の人骨」『人類学雑誌』33－７
5　松村　瞭　1918　「新発見の洞窟内遺跡」『教育画報』７－１
6　阿部余四男　1919　「越中氷見洞窟の獣骨の一部」『人類学雑誌』34－10
7　小金井良精　1919　「日本石器時代人の歯牙を変形する風習について」『人類学雑誌』34－11～12
8　小金井良精　1920　「日本石器時代の赤き人骨について」『人類学雑誌』35－11～12
9　佐藤伝蔵　1920　「地学上より見たる越中氷見の洞窟」『地学雑誌』32－177
10　大村正之　1921　「石器時代及古墳時代遺跡」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査会報告』第２号
11　大村正之　1922　「大境洞窟住居址」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査会報告』第３号
12　大村正之　1923　「氷見郡加納村加納横穴群」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査会報告』第４号
13　大村正之・林喜太郎　1924　「朝日貝塚発掘調査報告」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査会報告』第６号
14　岡本規矩男・大井敏雄・二井一馬　1927　「越中氷見朝日貝塚人骨発掘予報」『人類学雑誌』42－３
15　後藤守一　1927　「大境洞窟」『日本考古学』16
16　柴田常恵　1927　「石器時代住居址概論」『石器時代の住居址』
17　長谷部言人　1927　「大境洞窟の遺跡に就て」『先史学研究』
18　林喜太郎　1927　「朝日先住民族遺跡」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査会報告』第８号
19　林喜太郎　1930　「熊無村横穴古墳」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第10号
20　林喜太郎　1930　「阿尾城阯付近史蹟」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第10号
21　大村正之　1932　「朝日貝塚東方湊川沿岸の発掘物」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第12号
22　九里愛雄　1932　「阿尾城阯」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第12号
23　嶋尾正一　1937　『郷土史料－朝日貝塚の土器紋様』
24　早川荘作　1937　「越中大境洞窟発見の銅鏃」『中部考古学会彙報』４月号
25　湊　　晨　1937　「越中国氷見町岩上発見石包丁」『中部考古学会彙報』３月号
26　片山逸郎　1938　「朝日貝塚人上肢骨の人種解剖学的研究」『金沢医科大学解剖学業績』第31冊
27　嶋尾正一　1940　「阿尾城阯」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第14号
28　早川荘作　1940　「越中における弥生式文化の遺物について」『富山県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第14号
29　嶋尾正一　1950　『阿尾村の指崎古墳－その発掘について－』氷見郷土学会
30　富山県史蹟名勝天然紀念物調査会・富山考古学会　1950　『史蹟朝日貝塚第３回発掘報告』
31　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1950　『富山県氷見地方横穴古墳調査報告書』
32　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1951　『昭和25年度研究調査報告集』
33　林　夫門　1951　「朝日貝塚の自然遺物」『大境』第１号
34　湊　　晨　1951　「朝日貝塚遺跡内の泥炭地包含層」『大境』第１号
35　嶋尾正一　1952　「大境の洞窟遺跡」『富山教育』45～48号
36　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1952　『朝日長山古墳発掘調査報告書』
37　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1955　「加納横穴古墳発掘報告」「沖布遺跡発掘報告」『氷見高校歴史クラブ報告書No.５』
38　橋本芳雄　1955　「小窪廃寺の心礎と瓦窯址」『越中史壇』第５号
39　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1956　『昭和30年度調査報告集』
40　氷見市文化財保存会　1957　『大境洞窟遺跡と朝日貝塚』
41　柳原龍寛　1957　「火葬墳墓信仰と北陸地方出土須恵器骨壺考」『越中史壇』第12号
42　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1958　『柳田遺跡調査報告書』
43　清水一布　1960　『灘浦誌』
44　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1961　『故郷の城址』
45　上庄村史編纂委員会　1963　『上庄村史』

46　氷見市史編修委員会　1963　『氷見市史』
47　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1964　『富山県氷見地方考古学遺跡と遺物』
48　富山県立氷見高等学校歴史クラブ　1966　「朝日水源地遺跡調査報告」「加納西第22・23号横穴古墳発掘報告」『氷見高校歴史クラブ報告書№12』
49　湊　　晨　1966　「氷見海岸の人文景観と文化財」『氷見海岸二上山学術調査書』
50　湊　　晨　1969　「氷見市上久津呂遺跡」『富山考古学会連絡紙』33
51　加納史話編集委員会　1970　『加納史話』
52　斉藤道保　1970　「富山県氷見市加納西第22・23号横穴」『日本考古学年報』18
53　湊　　晨　1970　『四十塚遺跡緊急発掘調査と埋蔵文化財の破壊』（パンフレット）
54　西井龍儀　1971　「氷見市谷屋発見の子持勾玉」『考古学ジャーナル』№54
55　富山県　1972　『富山県史』考古編
56　氷見市教育委員会　1972　『大境の洞窟遺跡－その保護』
57　氷見市教育委員会　1973　『富山県氷見市朝日長山古墳調査報告書』
58　氷見市教育委員会　1975　『富山県氷見市九殿製塩遺跡調査報告書』
59　氷見市立池田小学校　1975　『水哉－池田小学校と校下の歴史－』
60　余川のあゆみ編集委員会　1976　『余川のあゆみ』
61　児島清文　1977　「湯山城私考」『富山史壇』第66号
62　稲積教育百年史編纂委員会　1978　『稲積教育百年－教育と歴史－』
63　細川真樹　1978　「加納横穴墓群の諸問題」『学叢Ⅱ』高岡第一学園
64　富山県教育委員会　1979　『昭和53年度富山県埋蔵文化財調査一覧』
65　児島清文　1980　「阿尾城史話」『氷見春秋』創刊号
66　氷見市教育委員会　1980　『富山県氷見市堀田大久前遺跡発掘調査概報』
67　氷見市教育委員会　1980　『富山県氷見市鞍川金谷包含地、一の瀬包含地調査概報』
68　細川真樹　1980　「朝日横穴墓」『氷見春秋』創刊号
69　湊　　晨　1980　「最古の日本人骨か－幻の泊洞穴人十五年の顚末」『氷見春秋』創刊号
70　湊　　晨　1980　「湊川変遷史雑考」『氷見春秋』第２号
71　松島　洋　1981　「氷見十二町潟低湿地の断面露頭」『富山教育』709号
72　氷見市教育委員会　1982　『富山県氷見市長坂貴船遺跡試掘調査報告書』
73　安田喜憲　1982　「花粉分析から見た富山湾沿岸の縄文前期の遺跡」『小泉遺跡』大門町教育委員会
74　氷見市教育委員会・氷見市立博物館　1983　『氷見市遺跡地図』
75　湊　　晨・児島清文　1983　「中尾古銭埋置遺跡」『氷見春秋』第７号
76　岡本恭一　1984　「加納横穴墓群」『氷見市立博物館年報』第２号
77　氷見市教育委員会　1984　『富山県氷見市小久米古墳群・小久米Ａ遺跡試掘調査報告書』
78　氷見市教育委員会　1984　『富山県石動山信仰遺跡遺物調査報告書』
79　藤田富士夫　1984　「《富山県》特集：最後の前方後円墳」『古代学研究』第105号
80　小島俊彰　1985　「朝日貝塚の朝日下層式土器再見」『大境』第９号
81　林　夫門・溝口優司　1985　「富山県朝日・小竹両貝塚出土の縄文時代人骨について」『国立科学博物館専報』18号
82　氷見市教育委員会　1985　『富山県氷見市小久米Ａ遺跡発掘調査報告書』
83　氷見市教育委員会・富山県砂防課　1985　『富山県氷見市藪田薬師中世墓発掘調査報告書』
84　松浦秀治　1985　「富山県氷見市泊洞穴から出土した人骨のフッ素含量」『国立科学博物館専報』18号
85　岡本恭一　1986　「氷見市朝日本町出土石造物」『氷見市立博物館年報』第４号
86　氷見市教育委員会・八代仙ダム建設計画に係わる文化財調査団　1986　『八代仙ダム建設計画に係わる文化財調査概報－地形地質・生物・埋蔵文化財』
87　平口哲夫　1986　「富山湾沿岸における縄文時代のイルカ捕獲活動」『大境』第10号
88　西井龍儀　1987　「小窪瓦窯跡」『北陸の古代寺院』　桂書房
89　西井龍儀　1987　「小窪廃寺」『北陸の古代寺院』　桂書房
90　速川村史編集委員会　1987　『速川村史』
91　大野　究　1988　「稲積西ヶ谷内遺跡出土遺物」『氷見市立博物館年報』第６号

92　高岡　徹　1988　「堀田城について」『両越地域史研究』創刊号
93　西井龍儀・林寺厳州・大野　究　1988　「氷見市園カンデ窯跡」『大境』第12号
94　氷見市教育委員会　1988　『富山県氷見市堀田西谷内遺跡試堀調査報告書』
95　山本正敏・大野　究　1988　「氷見市十二町潟排水機場遺跡の資料」『大境』第12号
96　小片　保・加藤克知・六反田篤　1989　「富山県氷見市泊洞穴から出土した人骨の形質について」『人類学雑誌』97－3
97　北　　哲・小境卓治　1989　「発見された藤原期の出土仏」『氷見春秋』第20号
98　氷見市教育委員会　1989　『脇方横穴群』氷見市埋蔵文化財調査報告第10冊
99　氷見市教育委員会　1989　『国指定史跡石動山文化財調査報告書』
100　大野　究　1990　「余川川流域の遺跡資料」『氷見市立博物館年報』第８号
101　大野　究　1990　「久目村の考古資料」『久目村史』
102　氷見市教育委員会　1990　『一般国道１６０号氷見バイパス埋蔵文化財試堀調査報告Ⅰ』氷見市埋蔵文化財調査報告第11冊
103　高岡　徹　1990　「氷見南部地域における中世山城とその性格」『富山市日本海文化研究所紀要』第４号
104　氷見市教育委員会　1991　『一般国道１６０号氷見バイパス埋蔵文化財試堀調査報告Ⅱ』氷見市埋蔵文化財調査報告第12冊
105　大野　究　1991　「大境洞窟遺跡発掘調査の周辺」『氷見市立博物館年報』第９号
106　氷見市教育委員会　1992　『氷見バイパス関連遺跡調査報告Ⅰ』氷見市埋蔵文化財調査報告第13冊
107　大野　究　1992　「坪池白坂遺跡の資料」『氷見市立博物館年報』第10号
108　大野　究　1992　「虻が島遺跡の考古資料」『氷見市立博物館年報』第10号
109　大野　究　1992　「堀田川採集の考古資料」『氷見市立博物館年報』第10号
110　大野　究　1992　「千久里城跡発掘調査概要」『氷見市立博物館年報』第10号
111　林寺厳州　1992　「守山城郭群とその採集遺物」『大境』第14号
112　林寺厳州　1992　「小竹山城について」『氷見春秋』第25号
113　佐伯哲也　1992　「氷見市中部の城郭について」『氷見春秋』第26号
114　氷見市教育委員会　1993　『氷見市遺跡地図［第２版］』氷見市埋蔵文化財調査報告第14冊
115　氷見市教育委員会　1993　『氷見バイパス関連遺跡調査報告Ⅱ』氷見市埋蔵文化財調査報告第15冊
116　大野　究　1993　「朝日長山古墳の墳形について」『氷見市立博物館年報』第11号
117　氷見市教育委員会　1993　『県指定史跡阿尾城跡文化財調査中間報告書』

朝日潟山古墳群・中村天場山古墳測量調査の成果

はじめに

氷見市内には100基以上の古墳が確認されているが、そのほとんどは円墳または方墳と考えられている。[1] 昭和27・47年に発掘調査された朝日長山古墳は前方後円墳の可能性が高く、全長約30ｍと推定している。[2] が、この他では今回ここに取り上げた２基を除いて、今のところ前方後方墳・前方後円墳は確認されていない。

このように市内で数少ない前方後方墳・前方後円墳であるが、これらが古墳時代の地域史を考察する上で非常に重要なものであることはいうまでもない。しかし両古墳とも発見者による未公表の略測図があるのみで正式な調査はなく、墳形や規模について正確なデータが欠けていた。そこで今回これらの古墳の基礎資料を得るため、測量調査を実施することにした。

調査は氷見市立博物館学芸員（生涯学習課兼務）大野究と氷見市教育委員会生涯学習課学芸員鈴木瑞麿が中心となり、以下の富山大学大学院人文科学研究科及び富山大学人文学部考古学研究室学生諸氏の協力を得て、平成５年３月５日～３月16日に実施した。調査にあたって氷見市文化財審議委員の湊晨・橋本芳雄両氏には準備段階から多くの協力をいただき、両古墳の発見者である富山考古学会会員西井龍儀氏には調査期間を通してご指導・ご教示をいただいた。また富山大学人文学部助教授の宇野隆夫・前川要両氏には一部の機材を借用させていただくなど援助を受けた。さらに朝日潟山古墳群の地主である湊晨・本川藤由・山岸昭・山岸利政の各氏、中村天場山古墳の地主である西田利作・中出憲一・川江義雄・南長一の各氏、中村地区区長の山下博氏には、調査の主旨を快くご理解いただき、ご協力を賜わった。以上厚くお礼申し上げる。

調査参加者：亀井聡・高橋浩二・鈴木和子・島崎久恵・宮田明・大泰司統・松山温代・河合忍・武田昌明・福海貴子・松原和也・中田書矢

Ⅰ　朝日潟山古墳群

１　立地

朝日潟山（あさひかたやま）古墳群（遺跡地図番号134）は、氷見市朝日丘の通称潟山の尾根、標高約25ｍに所在する。この丘陵は氷見市中央部を東西にのびる朝日山丘陵の東南端にあたり、平野との比高は約20ｍである。古墳群からは市街地や富山湾をはじめ、かつての十二町潟一帯を望むことができる。

潟山丘陵のすぐ東には、縄文時代前期～中期を中心とする国指定史跡朝日貝塚があり、ここでは弥生時代終末期～古墳時代初期の土器・古代須恵器・中世珠州焼も確認されている。また谷をはさんだ北側の丘陵端には古墳時代後期の朝日長山古墳が所在する。

朝日潟山古墳群は昭和55年６月17日に西井龍儀氏が発見し、全長約36ｍの前方後方墳と一辺が約９ｍの方墳の２基と推定している。

古墳の現状は山林である。

２　調査の方法

測量にあたっては、１号墳の後方部中央に測量原点０を設置し、古墳の主軸に沿って北にＮ１・Ｎ２・Ｎ３・Ｎ４・Ｎ５の各杭を、南にＳ１・Ｓ２の各杭を設置した。１号墳と２号墳は主軸がずれるため、Ｓ２杭からは東に15°主軸を振ってＳ３・Ｓ４・Ｓ４′・Ｓ５・Ｓ６の各杭を設定した。さらに各杭から主軸と直交する基準杭を設定した。各杭の標高は氷見市伊勢大町の伊勢玉神社境内の水準点（5.38ｍ）から移動し、杭間の水平距離は光波距離測定機で算出した。この成果をもとに等高線25㎝間隔で縮尺1/100の平坂測量図を作成した。

なお測量中に１号墳後方部東南斜面で須恵器を１点採集した（第３図）。５世紀後葉～６世紀初め頃の瓶であろう。

３　測量結果と墳丘の復原（第１図）

ａ　１号墳

古墳は東側と南側が一部耕作等のため削平されているのに対して、西側は比較的旧状を残していると考えられる。したがってここでは西側を中心にして墳丘の復原を試みた。なお古墳は前方部を北北西に向け、主軸は磁北から西へ約10°振る。

前方部北西裾は現状の傾斜変換点を採用し、西側は等高線に沿ってくびれ部まで復原した。前方部前面は西側の傾斜変換点および26.000ｍの等高線を評価し、北側にややふくらむと考えた。前方部東側は西側の復原から推測したが、25.250ｍと25.500ｍの等高線にその旧状がうかがえよう。

後方部西南部も削平されているが、北西裾の傾斜変換点を評価し、主軸と平行に南へ復原した。一方後方部東南側は24.500ｍ前後の段差を評価し、東側と南側を復原した。これにより後方部南側の山道東側にある突出部が、逆に削平前の墳丘の残存部として解釈できよう。

測量結果とその検討により、ここでは以下の様に古墳を復原しておく。

墳　　形：前方後方墳	前方部幅：14ｍ
全　　長：33ｍ	前方部高：　1.8ｍ
後方部長：16ｍ	くびれ部幅：7ｍ
後方部幅：18ｍ	後方部最高点標高：26.946ｍ
後方部高：　1.9ｍ	前方部最高点標高：27.550ｍ
前方部長：17ｍ	後方部前方部比高：　0.604ｍ

ｂ　２号墳

古墳は１号墳の東南約９ｍの尾根先端部に位置する。主軸は１号墳より約15°東に振るが、これは地形による制約であろう。

古墳北側の尾根が幅約４ｍで切断され、１号墳南側平坦地と区別される。この平坦地には若干の高まりが認められ、ここにも古墳の存在する可能性がある。

古墳墳丘は南側がかなり崩れているが、現状の傾斜変換点を評価して復原した。

墳　　形：方墳	北側の高さ：　0.6ｍ
規　　模：９ｍ×16ｍ	最高点標高：23.191ｍ

Ⅱ　中村天場山古墳

１　立地

中村天場山（なかむらてんばやま）古墳（遺跡地図番号37）は、氷見市中村・谷屋字天場

の独立丘陵の西端、標高約25ｍに所在する。この丘陵は上庄川中流の平野中央に位置し、東西約250ｍ・南北約50ｍと細長い。古墳のあるところが最も高く、平野との比高は約12ｍである。

上庄川流域は氷見市で最も古墳の分布する地域であり、上流に近い触坂地区まで確認されているが、特に中村天場山古墳の周辺は平野周囲の丘陵に泉古墳群・中村粟屋古墳群・イヨダノヤマ古墳群・新保横穴群・中村横穴群等があり、密度の高い地域である。

中村天場山古墳は古くから墓の伝承があったが、昭和62年11年14日に西井龍儀氏と筆者が踏査し、全長約33.5ｍの前方後方墳と推測した。

なお今回の調査により前方後円墳の可能性が高まったため、以下では前方後円墳として記述する。

古墳の現状は山林である。

2　調査の方法

測量にあたっては、古墳の後円部中央に測量原点０を設置し、主軸に沿って東にＥ１・Ｅ２の各杭を、西にＷ１・Ｗ２・Ｗ３・Ｗ４の各杭を設置した。原点０とＥ１からはさらに主軸に直交する杭を南北に設置した。各杭の標高は古墳上にある三角点（27.1ｍ）から測定し、杭間の水平距離は光波距離測定機で算出した。この成果をもとに等高線25㎝間隔で縮尺1/100の平坂測量図を作成した。

3　測量結果と墳丘の復原（第２図）

古墳は後世の耕作等によりかなり改変されているが、基本的に現状の傾斜変換点と等高線から墳丘を復原した。なお古墳は前方部を東に向け、主軸は軸北から西に約86°振る。

前方部東側はゆるい斜面にわずかながらテラスがあり、ここを墳丘裾とした。前方部両側面は南側の傾斜変更線を参考にし、北側もこれに基づき推測した。くびれ部は両側とも旧状がよく残っているため、等高線に沿って復原した。

後円部は南側の傾斜と等高線を参考にし、西側は26.000ｍ前後の段差を採用した。なお当初前方後方墳と考えた北側と西側の直線的な地形は、北側が地形による制約、西側は耕作による改変の結果と考えた。

測量結果とその検討により、ここでは以下の様に古墳を復原しておく。

墳　　形：前方後円墳	前方部幅：12ｍ
全　　長：32ｍ	前方部高：2.2ｍ
後円部長：20ｍ	くびれ部幅：10ｍ
後円部幅：18.5ｍ	後円部最高点標高：27.568ｍ
後円部高：1.5ｍ	前方部最高点標高：26.993ｍ
前方部長：12ｍ	後円部前方部比高：0.575ｍ

Ⅲ　まとめ

古墳の最終的な評価は、将来の発掘調査の成果を待たなければならないが、今回の測量調査の成果から、これらの古墳について若干の考察を加えておきたい。

a　朝日潟山古墳群

前方後方墳の１号墳と、方墳の２号墳の２基から構成される。両古墳の間に若干の高まりがあり、古墳となる可能性があるが、その他の丘陵周辺地域では現状で古墳は確認できない。

両古墳は丘陵尾根に主軸を一致させており、自然地形を最大限に利用して造営されたと考えられる。

１号墳は長さよりも幅の方が大きい後方部に、先端の開く前方部がつく。測量成果からみて段築・周溝の存在する可能性は少なく、また現状で葺石・埴輪等の外部施設は確認できない。後方部の方が前方部より若干高く築造されているが、前方部側の標高が高いため、結果的に最高点の標高では前方部の方が高くなるという特徴がある。

２号墳は尾根筋方向に長い長方形を呈し、低平な墳丘である。北側を除いて墳丘裾の区切りがつけにくいが、これは墳丘の流出のためだけでなく、築造の時点でそれがあまり強調されていなかったためとも考えられる。それに対して北側は幅約４ｍの浅い溝で区切られ、古墳築造にあたって尾根北側との隔絶に主眼がおかれていたと考えられよう。

古墳群の立地する潟山丘陵は東に現在市街地となっている平地をはさんで富山湾があり、南側にはかつての十二町潟が広がる。[3)] 古墳群は潟の出入口を見下ろす位置に築造されており、このことは古墳の被葬者が十二町潟を基盤とした集団の長であったことを推定させよう。

最後に築造時期であるが、１号墳では５世紀後葉～６世紀初め頃の須恵器瓿を採集しているが、古墳の前方部が撥形に開くことを重視して、古墳時代前期の築造と推定しておく。１号墳と２号墳の前後関係は不明であるが、その立地からして両者とも近い時期の築造[4)]であろう。測量調査のみで古墳の築造時期を推定することは困難であるが、以上のように指摘して今後の検討課題としておきたい。

b　中村天場山古墳

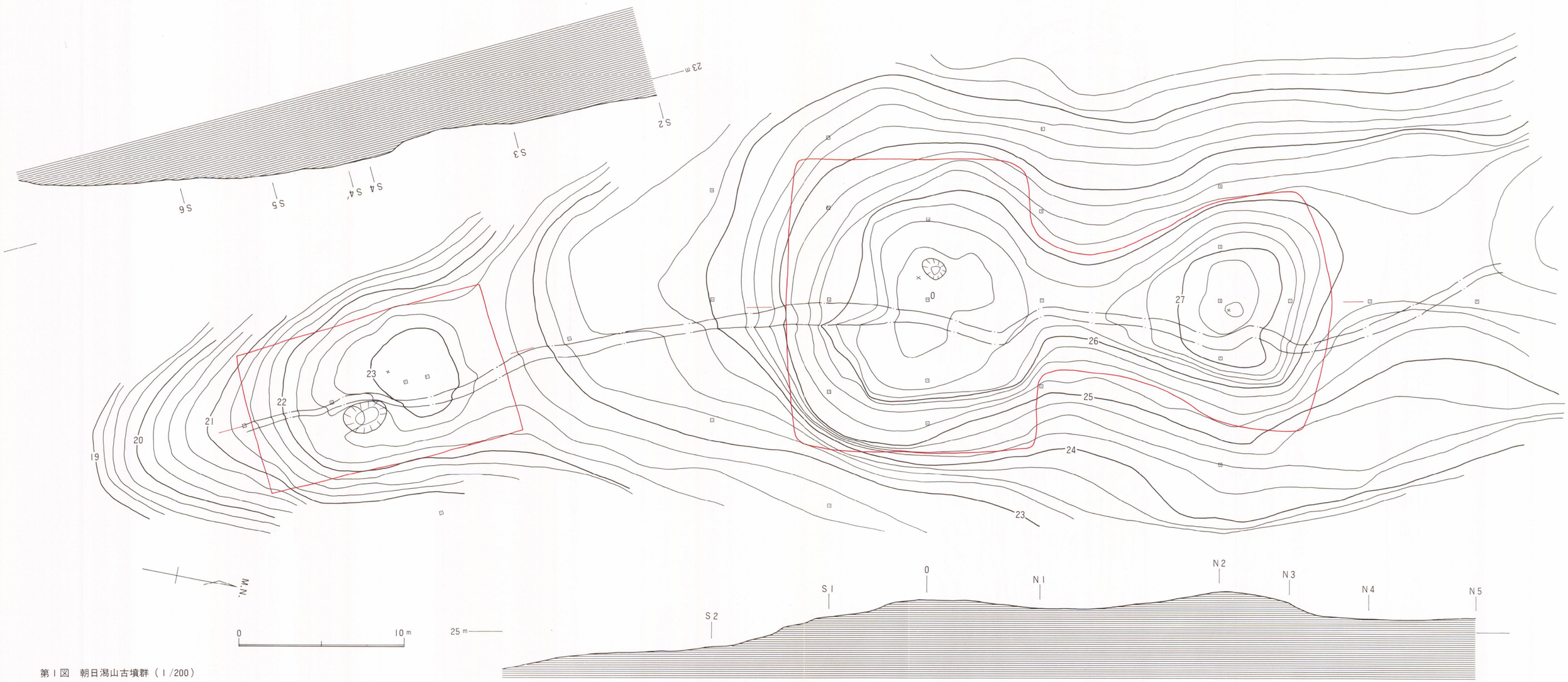
天場山丘陵は、古墳のある西側が山林、中央部が墓地、東側が畑地であり、現状では古墳は単独で立地するものと思われる。

古墳は丘陵尾根に主軸を一致させており、自然地形を最大限に利用して造営されたと考えられる。

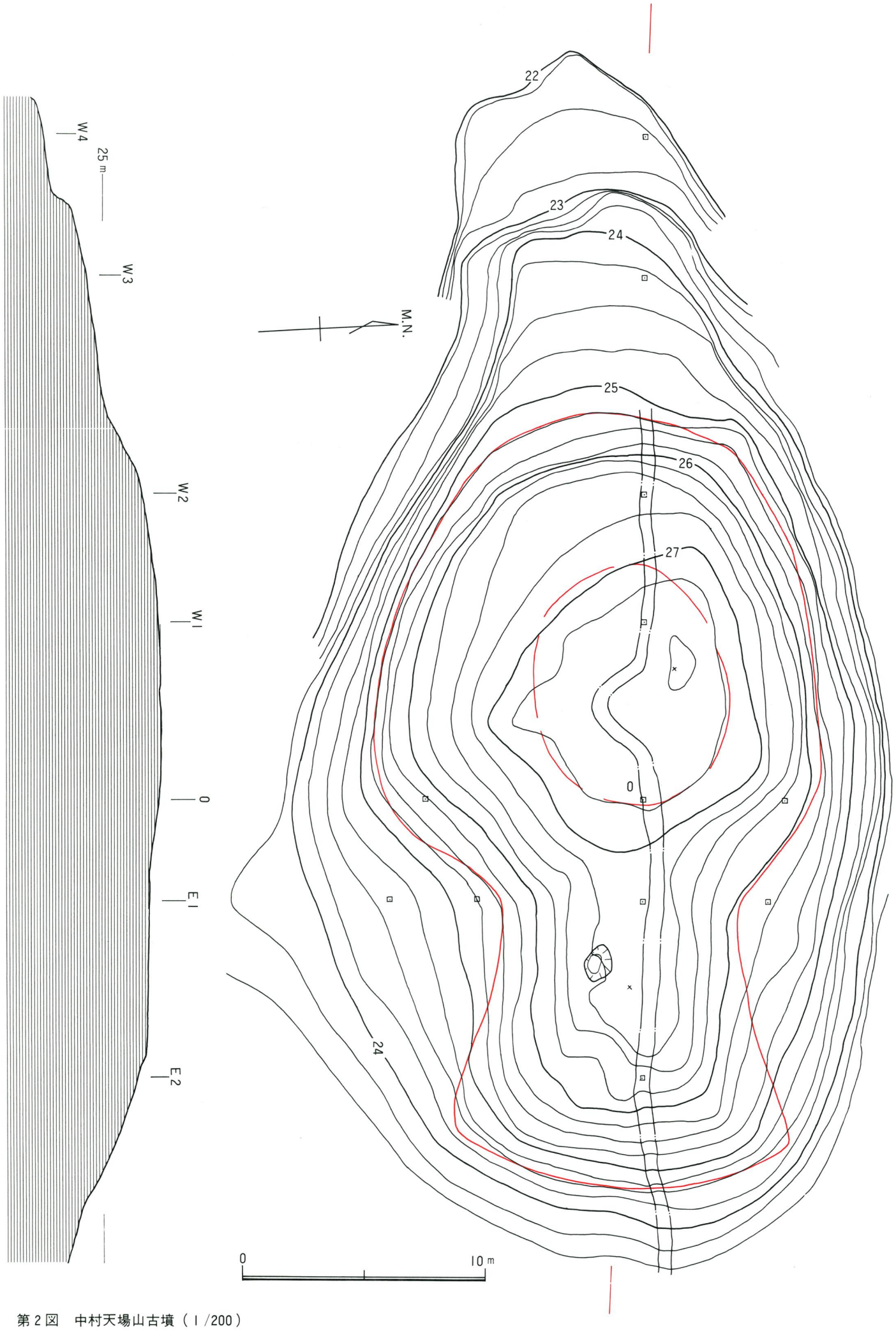
古墳は地形の制約を受けたややいびつな後円部に、短く端部のやや開く前方部がつく。測量成果からみて段築・周溝の存在する可能性は少なく、また現状で葺石・埴輪等の外部施設は確認できない。後円部は前方部よりやや高く、墳頂部は平坦である。

天場山は平野中央の独立丘陵であるため、周囲の平野・丘陵から容易に見わたすことができる。この平野は上庄川流域で最も広く安定した地域である。また能登と越中を結ぶ主要ルートが通り、周囲の各丘陵には古墳や横穴が密集する。中村天場山古墳の被葬者はこうした上庄川中流域の平野を基盤とした集団の長と考えられよう。なお、周囲の古墳のうち泉９号墳（鶏塚）と17号墳（鶴塚）が大正年間に発掘されている。[5)] 出土遺物やその状況は詳しく伝わらないが、泉９号墳からは水晶製の切子玉が出土しており、古墳時代中期末～後期頃の造営と考えられる。

最後に築造時期であるが、中村天場山古墳は前方部がやや開くことやその立地、越中の古墳の動向から[6)]みた周囲の古墳群との関連から、古墳時代前期の築造と推定しておく。測量調査のみで古墳の築



第1図　朝日潟山古墳群（1/200）



第２図　中村天場山古墳（１/200）

造時期を推定することは困難であるが、以上のように指摘して今後の検討課題としておきたい。

おわりに

測量調査により、朝日潟山古墳群については前方後方墳と方墳であることを確認し、中村天場山古墳については前方後円墳であることが判明した。また両者について現状からの墳丘の復原を試みた。築造時期については、あくまで推測の域を出ないが、両者とも古墳時代前期の築造と考えた。また古墳の立地から、朝日潟山古墳群の被葬者集団の成立基盤は潟、中村天場山古墳のそれは平野と考えた。

不十分な点もあろうが、以上をもって一応当初の目的は達成できたと思う。　（大野　究）

註

1　次の文献に氷見市内の古墳一覧がある。

氷見市教育委員会　1989　『脇方横穴群』氷見市埋蔵文化財調査報告第10冊

2　大野　究　1993　「朝日長山古墳の墳形について」『氷見市立博物館年報』第11号

3　古墳時代の十二町潟については次の文献で復原を試みている。

西井龍儀・林寺厳州・大野　究　1988　「氷見市園カンデ窯跡」『大境』第12号　富山考古学会

4　高岡市東上野Ⅰ古墳群や小矢部市谷内古墳群では、前期の前方後円墳に隣接して方墳が確認されている。本古墳群が前期のものとすれば同様の例と考えられよう。

高岡市教育委員会　1988　『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅴ』高岡市埋蔵文化財調査概報第５冊

富山大学人文学部考古学研究室　1988　『谷内16号古墳』富山大学考古学研究報告第２冊

5　氷見高校歴史クラブ　1964　『富山県氷見地方考古学遺跡と遺物』

6　田島富慈美　1990　「北陸における前方後円・後方墳の墳丘の変化と意義」『越中王塚・勅使塚古墳測量調査報告』富山大学考古学研究第４冊

第３図　朝日潟山１号墳採集遺物（１/１）

平成５年３月25日　印刷
平成５年３月31日　発行

氷見市埋蔵文化財調査報告第14冊

氷見市遺跡地図
［第２版］

編集・発行　氷見市教育委員会
〒935　富山県氷見市本町4-９
☎（0766）74－8215
印　　刷　株式会社 アヤト